

J-クレジット制度管理者御中

## 実績確認概要書

平成 29 年 12 月 01 日

審査機関名 ビューローベリタスジャパン株式会社

### 1. 排出削減事業計画の概要

排出削減事業名	「鳥取大学医学部附属病院 ESCO 事業」
プロジェクト番号	KC0993
排出削減事業者名	国立大学法人鳥取大学
排出削減共同実施事業者名	J-クレジット制度事務局 (その他関連事業者名：なし)
事業実施場所	鳥取大学米子団地 (住所：鳥取県米子市西町 36-1)
事業の概要	「機器の効率化を図り、省エネとし、CO <sub>2</sub> の削減を図る。また、ボイラーは常時は重油焚きでなく、都市ガス運転とする。」
排出削減量の計画	2009 年度 2429 tCO <sub>2</sub> /年 2010 年度 2429 tCO <sub>2</sub> /年 2011 年度 2429 tCO <sub>2</sub> /年 2012 年度 2429 tCO <sub>2</sub> /年 (国内クレジット制度 事業実施期間合計 9716 t-CO <sub>2</sub> ) 2013 年度 2392 t-CO <sub>2</sub> /年 2014 年度 2425 t-CO <sub>2</sub> /年 2015 年度 2417 t-CO <sub>2</sub> /年 2016 年度 2417 t-CO <sub>2</sub> /年 (J-クレジット制度 事業実施期間合計 9651 t-CO <sub>2</sub> )
クレジット 認証期間	開始日 2009 年 4 月 1 日 終了予定日 2017 年 3 月 31 日
排出削減方法論	方法論番号 001 「ボイラーの更新」 方法論番号 002 「ヒートポンプの導入による熱源設備の更新」

	方法論番号 005 「間接運転制御・インバーター制御又は台数制御によるポンプ・ファン類可変能力制御機器の導入」 方法論番号 006 「照明設備の更新」
--	--

## 2. 本実績確認の対象期間

2013年4月1日 ～ 2017年3月31日（第3回目実績報告）

## 3. 実績確認結果

本実績報告期間における排出削減量は、承認排出削減事業計画に従ってモニタリングされた結果に基づき算定されており適正である。

<b>排出削減量</b>	9371 tCO <sub>2</sub> (2013年4月1日 ～ 2017年3月31日)
--------------	---

## 4. 実施した実績確認手続きの概要

以下の実績確認手続きにより、報告された排出削減量に重大な誤りがないことを確認している。

要件	実績確認手続き
<b>排出削減量が承認排出削減事業計画に従って当該計画を実施した結果生じていること</b>	1) 開始日の確認（初回実績確認の場合） 3回目のため該当なし 2) 対象期間中の設備稼働確認 更新後の都市ガスボイラー、ヒートポンプ、エコキュート、高効率照明機器と、空調熱源2次ポンプのインバーター制御が、実績確認期間中、継続的に稼働していることを、BEMSによる計測データ記録（「鳥大 J-クレ詳細計算シート」の月次・年次実績データと、「鳥大 ESCO 月次報告書」の日報データ）にて確認した。
<b>排出削減量が承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されていること</b>	1) モニタリング方法の確認 6種類の削減事業に関するモニタリング対象指標の実績内容を確認し、以下の2)項以外は、承認方法論並びに承認事業計画に従って、実施されていることを確認した。 2) モニタリング対象指標の1ヶ所（排出削減事業計画書の、7. モニタリング方法の詳細 7.1 モニタリング対象 ①高効率空調熱源機の導入 項目:M-4 での、モニタリング

	<p>方法) で、モニタリング方法の記述文に関して、排出削減事業計画書の変更届が提出され、排出削減事業計画書の再妥当性確認が不要との確認書を提出した。</p> <p>3) 活動量の正確性 モニタリング対象指標での活動量の内、都市ガス及び電力使用量は BEMS による計測データで、また照明設備の稼働時間は BEMS による計測データと病院内での点灯消灯ルールに関するヒアリング等で確認し、制度の実施規定及び承認排出削減事業計画通り、正確に集計されていることを検証した。</p> <p>4) 単位発熱量、排出係数等の係数の確認 承認排出削減事業計画通りのモニタリング対象指標がリストアップされ、使用されている単位発熱量、排出係数等が J-クレジット制度・モニタリング・算定規程（排出削減プロジェクト用）Ver2.8 によるデフォルト値及び排出削減事業計画通りであることを確認した。</p> <p>5) 排出削減量算定方法及び算定結果の確認 事業実施後排出量、ベースライン排出量、排出削減量の算定結果を根拠資料と突合、方法論の定めた計算式との照合、計算過程の確認、再計算等を実施した結果、排出削減量の算定結果が正確であることを確認した。 また本事業において、リーケージ排出量は発生しないことを確認している。</p>
<p>算定期間が移行期間内であること</p>	<p>本実績確認の対象期間は、2013 年 4 月 1 日から 2017 年 3 月 31 日までであり、排出削減量を算定した期間が 2017 年 3 月 31 日を超えないことを確認した。</p>

5. 承認排出削減事業計画からの重要な変更点についての評価（該当する場合）

なし

6. 特記事項

本モニタリング期間における省エネルギー量について、原油換算 2957.6kl であることを確認した。

以上